



## 幻の東京五輪と手賀沼をテーマに展示を開催

幻の東京五輪と手賀沼をテーマに展示を開催

展示名称 杉村楚人冠記念館企画展「嘉納治五郎と手賀沼 ～幻の東京オリンピックをめぐる～」  
展示期間 令和元年7月9日（火）～10月6日（日）  
休館日 月曜日（祝休日除く）、7月16日、8月13日、9月17日・24日  
開館時間 午前9時～午後4時30分（入館午後4時まで）  
入館料 一般300円／高校・大学生200円 中学生以下無料

1940年オリンピックの東京開催決定は、手賀沼沿岸の人々にとっても朗報でした。それは、東京大会誘致の功労者が、我孫子町長らと我孫子の発展を語り合う座談会を開催するなど、我孫子に貢献してくれていた嘉納治五郎であったからにはほかなりません。

我孫子市教育委員会では旧井上家住宅（相島新田）に残されていた資料の調査を進めていたところ、平成30年度の調査において、当時井上家の後嗣であった井上武や、我孫子町長染谷正治が、手賀沼に東京オリンピックの漕艇会場誘致を進めていたことを示す書簡を発見しました。また、その書簡の内容から、嘉納治五郎もこの誘致に協力していたことを示す記述を確認しました。

彼らの努力もむなしく、東京オリンピックの漕艇会場は埼玉県戸田に決まり、ついには嘉納の死去からわずか二か月後に大日本帝国政府は戦争のために大会返上を決め、手賀沼でのオリンピック競技開催は幻のままとなります。しかし、手賀沼沿岸の発展のために、地域の人々が嘉納治五郎を頼りにして競技会場誘致に動いたことは、我孫子の歴史の一ページに刻まれるべき事柄でしょう。

以上のことから、二度目の東京大会開催を一年後に控え、NHK大河ドラマで嘉納治五郎の事績に注目が集まっているこの機会に、杉村楚人冠記念館を会場として企画展「嘉納治五郎と手賀沼 ～幻の東京オリンピックをめぐる～」を開催します。杉村楚人冠関係資料中の嘉納治五郎書簡や、新発見の井上家資料の展示から、手賀沼と幻のオリンピックの関係が浮かび上がります。

### 【問い合わせ】

我孫子市生涯学習部文化・スポーツ課

（展示内容について）

杉村楚人冠記念館 担当 高木

☎ 04-7187-1131（内線61-802）

（井上家資料について）

歴史文化財 担当 今野

☎ 04-7185-1583（内線70-841）